

# 本日、都議会本会議 代表 策向 大山ともし都議 豊洲新市場問題と徹底追及します。

①「しぶん赤旗」日刊にて、**追跡** 豊洲新市場を連載しています。

**「しぶん赤旗」連載はじめる!**

## 追跡 豊洲新市場 ③

崩れた安全神話

# 重ねた調査 “闇” 暴く

2016. 9.28付

「舛添都知事の追及に続き、豊洲市場の闇への切り込み調査はあっばれです」。日本共産党東京都議団（吉田信夫団長、17人）に激励や期待の声が相次いでいます。

今回、土壌汚染対策の重大な闇を白日のもとにさらした背景には、共産党都議団の粘り強い調査と追及の積み重ねがありました。

**有害物質が浸透**

豊洲新市場予定地は、1



都職員案内で、環境基準の4万3千倍のベンゼンが検出された東京ガス工場跡地を調査する日本共産党都議団。2008年5月8日、東京都江東区

石原慎太郎知事（当時）は2001年、それまで進めてきた築地市場の再整備計画を放棄し、東京ガスから、土壌汚染された豊洲工場跡地を購入して移転する方針を強引に決定。深刻な土壌汚染が明らかになって

には不適格だと主張。現地調査や情報開示請求などを行い、日本環境学会や市民団体と連携して告発し、移転を推進してきた石原、猪瀬直樹、舛添要一の3代の知事に移転計画の中止を迫ってきました。

築地市場を豊洲に移転する答申を決めた01年の都卸売市場審議会では、共産党は土壌汚染の深刻な実態を指摘し、答申案に反対しました（自民・公明委員などは賛成）。

07年2月の都議会でも曾根はじめ都議は「豊洲は埋め立て地で、地震の際の液状化や、地盤が横に数倍も移動する側方流動の危険がある」と指摘。地中の汚染物質が地表面上がっている

**危険性を告発しました。**

08年には豊洲予定地の土壌から、環境基準の4万3000倍もの発がん性物質ベンゼンや、検出されはならないシアン化合物が基準の930倍の高濃度で検出され、ヒ素、水銀なども見つかりました。

### 3・11で液状化

11年3月11日の東日本大震災では、豊洲予定地の108カ所で液状化現象が発生。曾根氏の警告が現実のものになりました。

共産党は直ちに現地調査を行い、液状化による噴砂現象を確認。液状化と土壌汚染の全面調査、移転中止を都に申し入れました。

17時40分ごろより、答弁をふくめて19時すぎ

一般質問は、10月5日(水)

14時40分ごろより

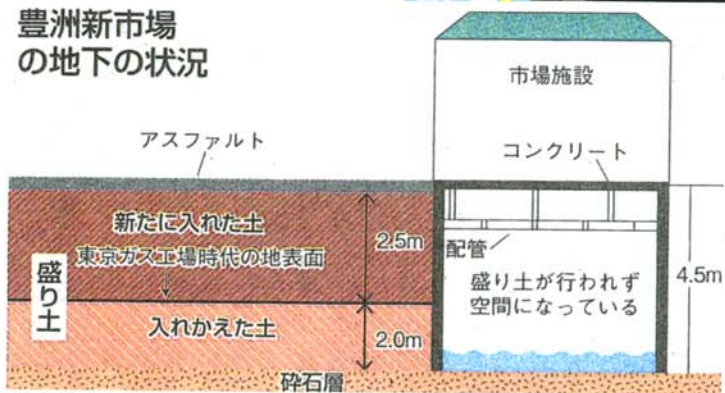
①傍聴をされる場合、日本共産党都議団に5320-7270

まずご連絡下さい。

※傍聴券が必要です。また、時間の変更もありますので。



### 豊洲新市場の地下の状況



日本共産党北区議会議員

さがら としこ

区政レポート

2016.10.4. No.1432

ご相談はお気軽に TEL とも 3905-0970

さがらとしこ事務所 赤羽北3-23-17 (バス停「赤羽北3丁目」、メガシティ近く)

日本共産党議員団 区役所内 3908-7144

10/8(土) 1:30~ 榎立三葉会館  
**そのはじめ都議が 都政の今を報告**

2016  
9月  
第3回  
定例  
区議会



2016年第3回定例会個人質問—さがらとしこ

2016年9月9日 | さがらとしこ

1. 『都営桐ヶ丘団地建替・再生事業第6期計画』と（仮称）桐ヶ丘区民センターの建設計画について
  1. 創出用地A地区を予定地とした理由と今後の予定について
  2. 住民参画による区民センター計画の具体化を求める
2. 『桐ヶ丘建替・再生第6期計画』と区立桐ヶ丘体育館の改築について
3. 桐ヶ丘団地建替事業と桐ヶ丘郷小の諸課題について
  1. 『桐ヶ丘第6期計画』にあわせ、改築用地確保を位置づけるべき
  2. 旧桐北小跡地の建替住棟（建替第4期）の完成に合わせ、通学路の再整備を求める
  3. 学校の南側に予定されている8階建ての住棟について（建替第5期）教育施設の環境をまもる対策を都に求めること
  4. 校門前を通過する新設区道計画について（第6期）通学時の安全確保と教育環境を守る対策について
4. 桐ヶ丘中サブファミリーブロックにおける新たな学校適正配置について
  1. 新設される1000戸の都営住宅や区有地への保育園新設など、新たな情報を学校適正配置検討会に提供すること
  2. 人口増が予測される中、児童数についての再調査を求める
  3. 児童数が増加傾向にある地域での、拙速な学校統合はやめよ
5. 超高齢化地域で、建替に伴う移転を安全にすすめるために、都とともに丁寧な対策を講ずること

「さがらレポート」2016.10.4. NO.1432.

# 北区教育委員会が桐ヶ丘中ブロック学校適正配置計画で 大義なき統廃合提案



6月より北区立学校適正配置計画に基づくグループ（桐ヶ丘中・十条富士見中サブファミリーブロック）の協議が開始されました。桐ヶ丘中ブロックでは、現在の4校を3校にする提案が示されています。

桐ヶ丘中ブロックで計画の対象にあがっているのは桐ヶ丘郷小、袋小、八幡小、赤羽台西小の4校。2012年の当初案では「3校4校」となっていた配置計画を、教育委員会が昨年12月に「3校」と改訂しました。当初案では現状維持も視野に入りましたが、

改訂案では1校を減らす提案に変わりました。児童数が増えるのに学校を減らす？

教育委員会が統廃合の根拠にあげているのは児童数の将来推計。約10年後の2025年までは増加するが、20年後の35年にはブロック内の児童数が現在と

ほぼ同じ水準にまで下がるというのです。

北区は現在、「人口ビジョン」と「北区版総合戦略」で少子化に歯止めをかけようと努力している真つ最中であり、20年も先の人口予測を基に統廃合を押し進めるとするのは余りにも説得力に欠けた議論です。今後10年間には児童数の増加が見込まれるのに学校を減らすというのは、時の流れに逆行するものです。

**学区変更で4校存続は十分可能**

そもそも、この地域では児童数の偏在こそが問題であり、学区変更で4校存続は十分可能です。ブロック協議では改めて「4校」も検討の対象とすべきではないでしょうか。



築地市場で働くひと  
を映像化。ぜひ、映画館へ  
◎10月1日より、東劇で先行上映開始!